

私の愛する…

西尾レントオール(株) 芝本和宜

～私の愛する“ボッチャ”～

『何やこれ～!? 簡単やん。わしにもできるわ。』から始めたこのボッチャ。ところがどっこい、これが思い通りの場所に球は転がらないし、力加減もわからない。無茶苦茶難しく奥深い競技なんです。

ボッチャとは、6m×12.5mのコート内でジャックボール(目標球)の白いボールに、赤・青のそれぞれ6球のボールを投げたり当てたりしてどれだけジャックボールに近づけられるかを競う、ヨーロッパから世界中に広まった重度脳性麻痺者や同程度の四肢重度機能障がい者の方が対象選手となる公式競技なんです。

競技は性別の区別はなく、障がいの度合いにより4つのクラスに分けられており、ボールの投げられない選手はランプという勾配器具を使用して、競技アシスタントと共に参加できるというルールになっています。

一見、ジャックボールに近づけるだけのシンプルな競技に思えますが、「どこにボールを転がして近づけるか?」「相手の投げる球をどう邪魔するか?」など相手の出方を予測しながらチームメンバーと様々な相談をし、戦術と心理戦を駆使して進めるかなり奥深い競技です。一球一球自分の投げた球が思い通りに転がった時の醍醐味が超～気持ち良く、一度経験すると、「もう一度投げたい!」と思わせられるおもしろい競技です。私自身も、ボッチャ競技のこういった魅力にのめり込んでしまった一人なんです。



弊社企業運動会でボッチャをする
廣瀬選手

このボッチャの面白さや楽しさ・戦術をより一層教えてくれたのが、2018年4月1日より弊社スペース営業部スポーツ設備課広報担当として所属している日本代表選手の廣瀬隆喜さんです。廣瀬選手は『目指せ金メダリスト』『ボッチャの知名度のさらなる向上を』という目標に向け、日々の練習や試合・大会活動、講演活動をされており、試合大会後の報告にオフィスに出勤、展示会時の弊社出展ブースのお手伝いもしております。

昨年11月に一般社団法人日本ボッチャ協会様が主催する【ボッチャ東京カップ予選会】にエントリーする事になり、10月半ばに廣瀬選手の貴重な練習時間の合間に出場する私と社員5名の強化特訓をお願いしました。

約3時間の特訓でしたが、ただ単に球を投げるだけではなく、戦略・戦術を練りながら集中して必死に練習しました。あつという間に時間が経過した感覚で、体と脳みそを酷使した為か練習後のチョコレートと甘いあんこたっぷりのたい焼きがとても美味しく感じた事を今でも覚えています。

昨年の【ボッチャ東京カップ予選会】は惜しくも決勝ラウンドへは進めませんでしたが、2019年のこの大会では必ず決勝ラウンドへ進出し、優勝を目指します。その為に、社内で公式なボッチャ倶楽部同好会を結成する予定にしております。



ジャックボール(白球)に青球・赤球を
いかに近づけられるか?



ボッチャ東京CUP
予選第1試合の投球



ボッチャ東京CUP予選会